令和３年度

第１回南区地域包括ケアシステム推進会議

資料



とまみぃ



なすび一先生



はまっち



きゅうりん

南区イメージキャラクター

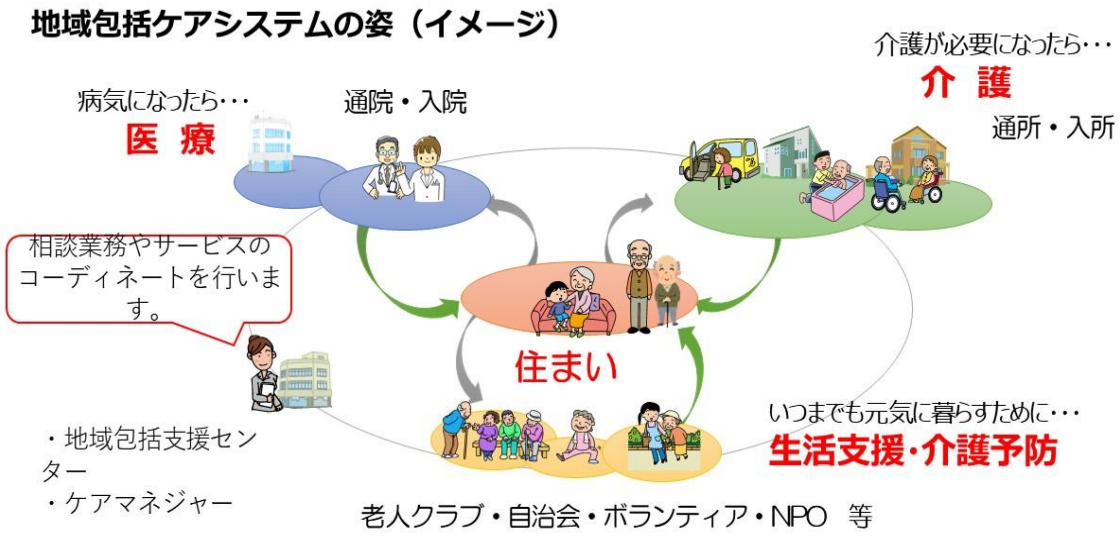
令和３年 10 月

熊本市　南区　　福祉課

１．南区地域包括ケアシステム推進の経過

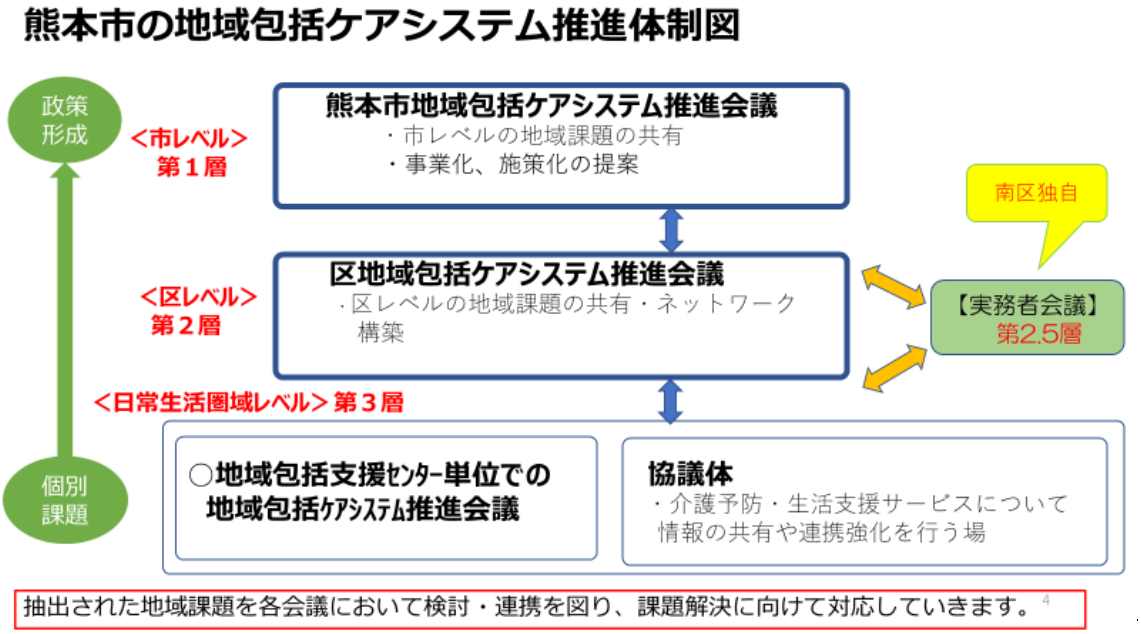
（１）地域包括ケアシステムの理念

団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される仕組みづくり。



2

（２）推進体制



（3）南区における地域包括ケアシステムのこれまでの経過

・H29 年度から南区における推進会議を年 2 回開催。

・R 元年度、第２層と第３層のあいだの実務者による会議体（第 2.5 層）を位置づけ。区内の関係課職員による会議を開催。

・Ｒ２年４月に南区地域包括ケアシステム推進方針を策定。

R2 年 6 月から推進方針を関係者に周知。

・R2 年 9 月から介護予防分野（取組１）と医療介護連携分野（取組２）における民間の関係機関参加による第 2.5 層実務者会議を開催（計 3 回）。

・R3.2 月、医療介護に関する南区職員アンケートを実施。

・R3 年 3 月、医療介護連携分野における第 2.5 層実務者会議にて、終末期医療に関する区民への啓発を重点的に取り組むことを共有。

R3 年度は医療介護連携分野における取組を重点的に推進。

２．南区における今年度の取組

令和２年４月に策定した南区地域包括ケア推進方針・アクションプランの遂行が新型コロナウイルス感染症の影響により、当初の計画どおり行えていないが、推進方針の取組１「介護予防」、取組２「医療介護連携」について、コロナ禍でも行える活動を実施。

（１）介護予防分野における実務者会議

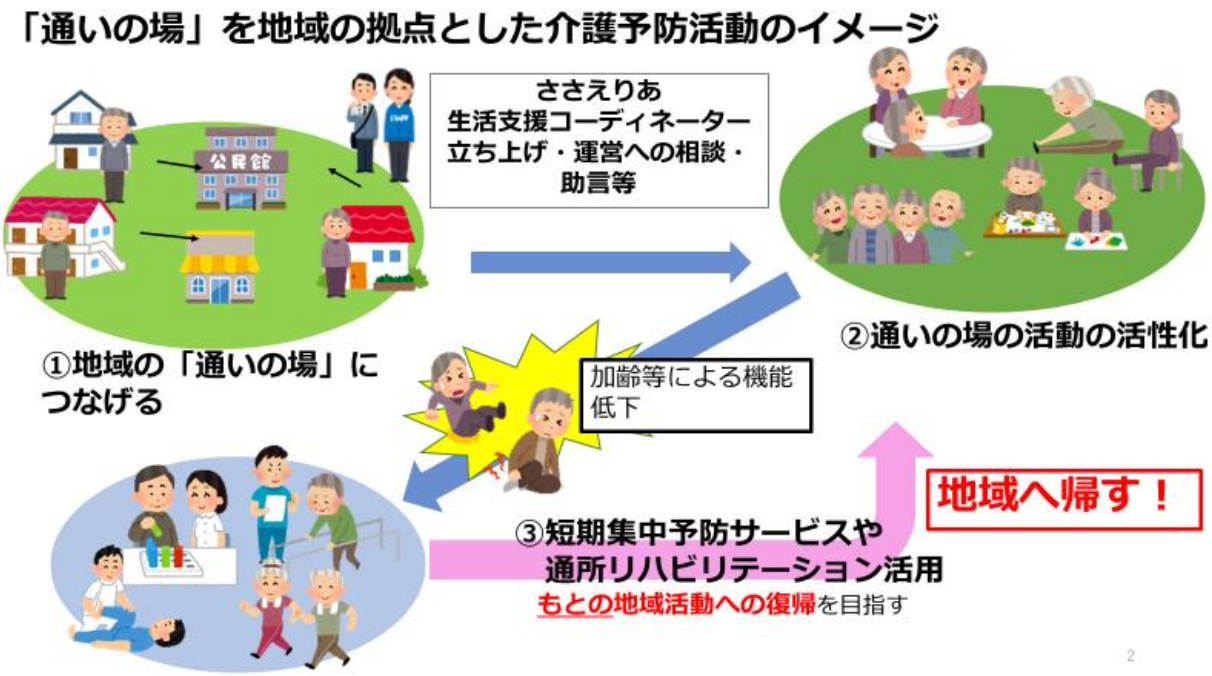
R2 年度に引き続き、令和 3 年 5 月 13 日（木）に介護予防分野における実務者会議をオンライン会議として開催。熊本地域リハビリテーション広域支援センター連絡会と合同で開催。

【参加者】

高齢者サロンや「くまもと元気くらぶ」等通いの場への技術支援や助言を行っている地域リハビリテーション広域支援センター、地域密着リハビリテーションセンターの専門職（理学療法士、作業療法士等）、各地域包括支援センター職員、行政（南区福祉課、高齢福祉課）等 31 名が参加。

【会議内容】

・ 参加者同士で「地域での介護予防活動を好循環サイクルにするためにできること」をテーマにした意見交換を実施。（下図参照）。



（２）医療介護連携分野における実務者会議

R2 年 11 月に南区として初めての医療介護分野における第 2.5 層実務者会議を開催し、今年度９月まで計 5 回開催。

（R３年度は、5 月 25 日（火）、7 月 27 日（火）、9 月 28 日（火）に実務者会議を開催）

【参加者】

急性期病院、回復期病院、在宅医療クリニック、訪問看護ステーション、介護施設、居宅介護支援事業所、薬局、終末期緩和ケア等各関係者、各地域包括支援センター職員が参加。1 回目参加者：22 名、2 回目参加者：25 名、3 回目参加者：28 名。

組織分類	所属機関	人数
急性期病院	済生会熊本病院	1
回復期病院	にしくまもと病院	1
在宅医療	ひまわり在宅クリニック	1
特別養護老人ホーム	社会福祉法人　天寿園	1
老人保健施設	介護保健施設　田迎ケアセンター	1
終末期緩和ケア	ファーマダイワ介護サービスセンター	1
薬剤	南熊本調剤薬局	1
訪問看護	訪問看護ステーションいきいきらいふ	1
地域リハビリテーション広域支援センター	にしくまもと病院	1
ケアマネージャー	居宅介護支援事業所　青い鳥	1
地域包括支援センター	南圏域　地域包括支援センター	7
行政	医療政策課	3
計		20

令和３年７月、南区管内の医療機関に会議への参加協力を依頼し、新たに４機関が参加。



【会議内容】

（R２年度）

・ 取組２「医療と介護のシステムの区民への啓発」について意見交換。

・ 専門職ではない区民の方に対し、「何を伝えるか？」、「どこまで伝えるか？」、「どのようにして伝えるか？」を念頭に置いた「区民に分かりやすい啓発」を目指し、医療、介護、在宅医療・介護の各専門グループ（退院時支援グループ、在宅療養グループ、家族支援グループの３グループ形成）で情報収集や検討を重ね、啓発ツールの作成に向けた取組を開始。

（R3 年度）

・ 3 グループそれぞれの啓発内容や方法を検討し、リーフレットによる啓発（退院時支援グループ、在宅療養グループ）と寸劇による啓発（家族支援グループ）を行うこととした。

・ 区民に対し、何を伝えるかについて、メンバーで共有。

区民に伝えること

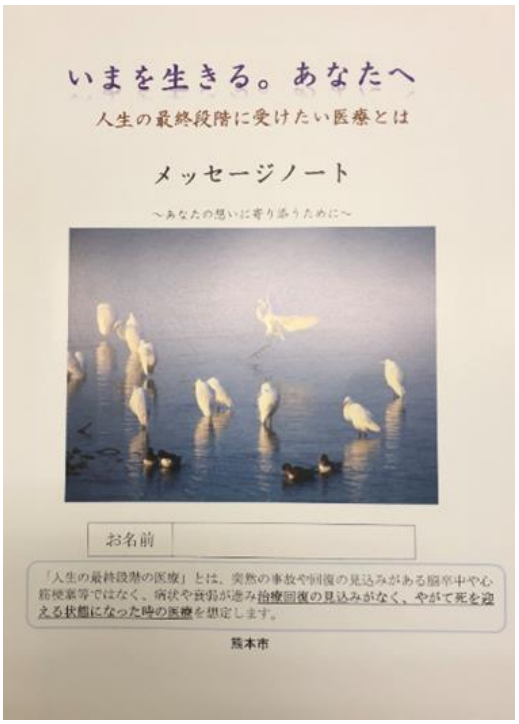
① ご自身の「人生の最期の迎え方」について見つめてもらう

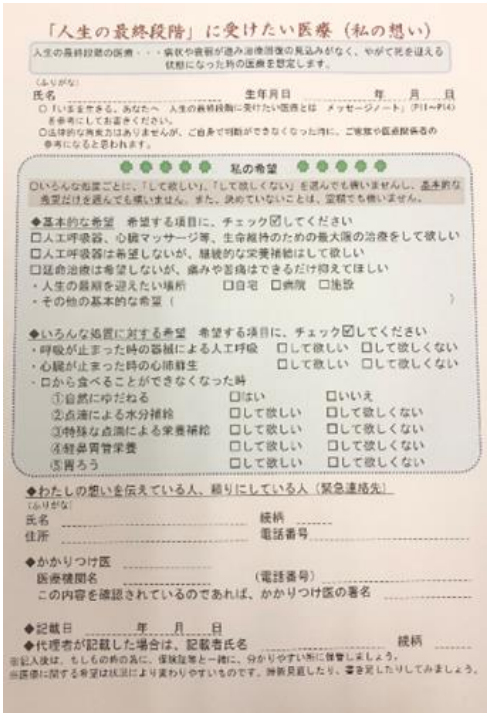
（コロナ禍だからこその大切さ）

② ご自身の治療の希望や最後の迎え方に対する想いを家族と話し合ってもらう

③ 自分の意志を書き残してもらう

（熊本市で作成している「メッセージノート」の紹介）次項参照。





（3）熊本銀行におけるセミナー「人生会議のすすめ」開催

令和３年９月２日、熊本銀行熊本市西南圏域６支店の職員 57 名を対象に、「人生の最期の迎え方」や「家族との話し合い」、「自分の意志を書き残す」大切さについて理解してもらうことを目的としたセミナーを開催。47 名の参加者からアンケートにより意見を聴取した。（アンケート結果は資料２のとおり）。





（4）地域住民等に対する終末期セミナーの実施

今年度、飽田・天明地域をモデル地域と位置づけ、地域住民に対する「終末期セミナー（仮称）」を開催予定。自身の「人生の最期の迎え方」や「最期の場面での治療の希望」等について、家族と話し合ってもらうことを推奨。市が作成した「メッセージノート」も紹介。

（5）南区人生会議の日～あなたの想いをつなげるために　はじめの一歩～の開催

厚生労働省が毎年 11 月 30 日を「人生会議の日」としていることにちなみ、令和 3 年 11 月 28 日（日）、天明ホールにて「南区人生会議の日～あなたの想いをつなげるために　はじめの一歩～」のイベントを開催予定（チラシ資料 3）。区民に「人生会議とは？」、「家族と話し合うことの大切さ」等を知っていただき熊本市が作成している「メッセージノート」も紹介予定。参加者にメッセージノートの「私の想い」への記入を体験してもらう予定。実務者会議メンバーで作成したリーフレットを同時配布。